

自分の作品をうみ出してくれる教科書

埼玉県 川口市立中居小学校 4年
富山 菜津美

「わぁ今日は図工だ。」

私のクラスは水曜日の三、四時間目に図工があります。図工の日は、いつも友達と、「図工だね、図工楽しみだね。」

と言います。

じゅ業の前の日、私は教科書をじっくり見ます。たくさんの絵やたんげん名を見ると明日どんなことをするかわかります。作品を見ると、物語ができて、図工の世界が広がり、ワクワクします。材料を見ると、この材料には、ふくらむせいしつがあるから木の実にしようなどいろいろ考えて作ります。でき上がった作品を想ぞうしたり、ここには何をかこうなどうかできます。

教科書の一つの作品を見ているといろいろうかできます。どんな人が作っただろう、何県の人が作ったんだろう、どんなことを考えて作ったんだろう、どんな季節に作ったんだろう。まだまだたくさんうかできます。「木々を見つめて」というたんげんに木の絵が描かれています。きっとこの絵を描いた人は、元気な人で男で太っている人だと思います。太っている人だと思った理由は、紙いっぱい描いているからです。そんなことを考えていると、その人としゃべっているみたいになります。

「キーンコーンカーンコーン。」

と図工のじゅ業が始まりました。教科書が方法を教えてくれます。でも、まねはしません。へたでも、世界で一つ作品だからです。私しか作れない作品だからです。二度と同じ作品は作れないからです。この絵の世界にいるような気持ちになります。

私のゆめは、自分の作品が教科書にのることです。自分の作品が日本中の人にみてもらえることです。九州に住んでいる親せきにも見てほしいです。想ぞうしたように、私も知らない人に想ぞうしてもらいたいです。これからも、教科書にのることを考えるのではなく世界で一つ自分の作品を作っていこうと思いました。